
東方電光伝

明久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方電光伝

【Nコード】

N7351Y

【作者名】

明久

【あらすじ】

平和主義者の最強系主人公が東方世界を駆け回るお話し。オリ主です。駄文です。それでも良い方は、どうぞ。

第一話 神社の中の妖怪（前書き）

駄文ですが、よろしくお願いします。

第一話 神社の中の妖怪

まず、俺は一人でなんかよくわからない山を歩いていったんだ。

そう。歩いていったんだ。リュックを背負って。

なぜかって？学校ではいじめられ、家では家庭内暴力の標的にされたからだ。

だから俺は家出した。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

家出をしてから数日、山の中をほっつき歩いていると、目の隅に神社があった。

何でこんな所にあるんだろう。と思いながら、実際にはうれしかったよ。うん。寝るところが出来たんだ。いつもは地面に座って寝てたんだよ。超寒いからね。

その神社までいくと、意外と大きかった。と思う。えーつと名前は  
つと。

「 神社」

えー、読めませんでした。ホント。ホントだってば。消えてて読め  
なかつたんだって。

まあ、いいや。えーと鐘を鳴らして

「失礼します。」

神社の中に入りました。何？そんなんでいいのかって？だって賽銭  
箱ないんだもん！他に何すればいいのさ？

そこはいいとして。この目の前の状況をどうするかを、まず教えて  
欲しい。

だって…… だって……

黄色の毛並みを持つ狼がそこにいたのだから。

ちよつとまで。なぜこうなっているんだ？どうしてこうなった？

落ち着け俺。深呼吸するんだ。

フウー。よし。状況を整理しよ「おい」って

「しゃべったー！！狼がー」

「しゃべっちゃ悪いか。まあ、いい。お前に質問がある。」

狼がしゃべったうえに、なんか質問された……。

「な、なんででしょうか……」

「なぜ、お前はここにきた。」

「えーっと。いじめられて、家庭内暴力の被害にあって、もうどうでも良くなったから家 出して、この山歩いてたらこの神社を見つけたから入ったところになった。」

「……」

まさか……。

「あの、答えになってなかった？」

「なぜ、驚かない？俺は妖怪だぞ。」

えっ。なんか無視されたし、神社に居たから神だと思ってた。

「んー。もうどうでも良くなったからかな。死ぬなら死ぬでいいし。」

「……フツ。気に入った。なあ。もうひとついいか？」

「なんだ？」

「人生をやり直す気はあるか？」

なんだってこんな質問するんだ？けど、答えるとしたら、そんなことは

「ない。」

「即答かよ。なぜだ？」

なぜかって？

「こんな時代をやり直す必要はないからだ。」

「あー。そこは大丈夫だ。」

「？ どうゆーこと？」

「行ってもらったのは、過去だ。」

「過去?どのくらい前にいくんだ?」

「えー。弥生ぐらいかな。」

まじかよー!!

「んー。だったらいいかな。でもなんだってそんな昔にいくんだけ?」

妖怪は、少しためらったが、はつきりと言った。

「……俺は、妖怪の最後の生き残りだ。みんな人間に退治されちまった。俺の数少ない友達もな。だから俺は過去を変えたい。だからだ。」

へー。妖怪にもこんな気持ちがあるのねー。感心した。

「分かった。だったら早くしようぜ。俺もこんな時代から、早く消えたいぜ。」

「よし。じゃあ目を閉じてくれ。」

俺は素直に目を閉じて少しまった。すると何か当たり、体の中に何かが入ってくるのを感じながら、意識を失った。

第一話 神社の中の妖怪（後書き）

東方キャラは次話に出せると思います。

たぶん。

## 能力と修行

俺は目を開ける。すると・・・

「どこどこ???」

青い空が見えた。

「そういえば・・・」

たしか俺は、神社を見つけて、妖怪に会って、転生だか過去に行く  
って言われてきたんだっけ？

まあ、そこらへんはいいや。とりあえず起きよう。

「ふあゝゝ、んゝゝゝ」

あくびをした後、思いつきり伸びる。

目に映ったのは、大地と森と・・・

「妖怪？」

なぜ?どうして?という思いを抑えつつ、考える。えーと憶えてい  
る事はなんだろう？

そして、頭に浮かんできた言葉は

『光を操る程度の能力』





思案すること10時間、やっと決まりました!!

名前は、安藤光輝あとうみつひかりってことになりました。

よろしくっ。

そういえば、外見って変わってんのかなあ？

っつこととで川にいっしょっ！

外見変ってなかった。

でも・・・

尾と耳がついてました。狼の。

しかも黄色。神社で会ったあの狼といっしょじゃん！

俺も妖怪かあゝ。いっぺん妖力だしてみつか。

「ん？」

なんか違うのもあるぞ。なんだろう。妖力とあわせてっつあるぞ。

ポフアアアアアアアアアアアアア

右手に妖力、左手に・・・

「霊力??？」

ってことは、俺は半人半妖になるな。

で、もう1つの力は・・・

ポフッ

右手の人差し指の先にポツンと

「魔力??？」

なんで流れてんだ??？でも小さいな・・・。

よし!!!修行しよう。

## 能力と修行（後書き）

すみません。東方キャラ出せませんでした。ごめんなさい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7351y/>

---

東方電光伝

2011年12月2日21時48分発行